

NOBIRU



入学志願書の書き方で注意すること

1. 募集要項・記入上の注意などをよく読むこと
2. 願書の持ち運びはクリアフォルダーを使用する
3. **鉛筆でうすく下書き**して担任の先生の点検を受ける
4. 文字は楷書^{かいしよ}でていねいに書く（略字はダメです）
5. 清書は黒ボールペンまたは万年筆（黒インク）で書く※消えるボールペンはダメ
6. 下書きの鉛筆はよく乾かしてからていねいに消す
7. 最後に印鑑を捺す（朱肉を使うもので）
8. 自分勝手に判断しない 親まかせにしない
9. 記入の仕方がわからない時は先生に相談する
10. もし、間違えたら先生に相談する（修正テープや二重線はダメです）



Web入学志願書で注意すること（阪南大学高等学校の場合 抜粋）

1. 高校公式ホームページのリンクからアクセスする
2. メールアドレスを入力し「送信」すると高校からメールが届く
3. 「メールアドレス」「パスワード」を入力し「ログイン」し「マイページ」を作成
4. マイページの「新規申込手続きへ」をクリックし出願情報を入力する
5. 登録した内容を確認し「**申込内容確認書(抜粋版)**」を作成する
6. 「**申込内容確認書(抜粋版)**」を印刷して中学校に提出する
7. 担任から「**確認OK**」が出たら検定料を支払う
※振り込み開始日は高校によって異なる
8. 支払い後、志願書・受験票の印刷が可能となる
9. 志願書・受験票を印刷して中学校に提出
10. 中学校で写真を貼り、校長印を捺します

※わからないときは各高等学校にお問い合わせ下さい

特に注意する事

- ・出身中学校名は「**松原市立松原第五中学校**」です
- ・写真は担任が貼ります（中学校で撮影済み）
- ・Web以外の入学志願書の下にある中学校名、所在地、校長名は記入しない（中学校でゴム印を捺します）
- ・受験料が銀行振込の場合、銀行で手続きし**振込済み証明書**をもらってくる（志願書にはのり付けしない。最終点検が終わってから貼ります）



- ・合否通知封筒に下書きする
（封筒のない学校もある・切手が不要の学校もあります）
切手を用意。切手の枚数は最小限に。
切手を貼る場所は左の図を参考に
- ・印鑑は試し捺しをし、向きを間違えないように
（朱肉を使用するタイプの印鑑で押印し、よく乾かすこと）

いま やるべきこと

①過去問・類似した問題を解く

私立高校入試まではできるだけ実践形式の問題を解きましょう。まだ過去問を解いていない人は過去問に着手するのはもちろんのこと、すでに過去問を解いた人も、もう一度繰り返し解いてみるのも良いでしょう。

受験直前は、新しいことを詰め込んでいく時期ではなく、これまで学んできたことを実際の入試問題でいかに高精度でアウトプットできるかという練習を積む時期です。一生懸命受験勉強をしてきた人なら一度は感じていると思いますが、基本的なテキストで知識のインプットや基礎を十分身につけても、いざ入試問題になるとうまく問題が解けない。つまりアウトプットできないという現象が受験勉強ではよく起こります。

◆ 「アウトプット」の意味とは？

アウトプット《output》
出力。⇔インプット。（大辞林 より）

◆ 「インプット」の意味とは？

インプット《input》
中に入れること。入力。⇔インプット。

インプットについて

体験する。知識を得る。自身の体験・学習し得た知識を成果や次の結果につなげる
インプットよりもアウトプットの方が重要！ 「インプット」 < 「アウトプット」
「アウトプット」は「インプット」よりも行動力が必要。そして何よりも、アウトプットがなければ新たな成果や次の結果などにつなげることはできません。

「本番形式」で学習をしましょう。過去の入試問題をしっかりと制限時間を設定し、時間の使い方や問題の解く順番、わからない問題の見極め方などを練習しましょう。

②1日1単元のスピードで弱点分野を問題集でカバーする

過去問で実践形式の問題を解いていくと、やはりこの時期でもどんどん苦手分野は見つかるものです。見つけた苦手分野については、今まで使ってきた問題集に戻ってもう一度復習しましょう。ただし、時間をかけて問題集を解いている時間はありません。苦手分野の復習をする場合、1日で1単元を確実に復習できるような計画を立てること。復習するべき単元が多く、とてもじゃないけれど1日で終わらない場合、1日で終われる分量に、さらに単元を細分化すると良いでしょう。

大切なことは、1日ずつ「この範囲は完璧に復習できた」という実感を積み重ねていくことです。ただでさえ焦りや不安が襲いやすいこの時期。苦手分野をダラダラといつまでも勉強していると、精神的にもよろしくありません。毎日1つでも成長しているという実感を持てる勉強を重ねていくことが、自信にもつながります。